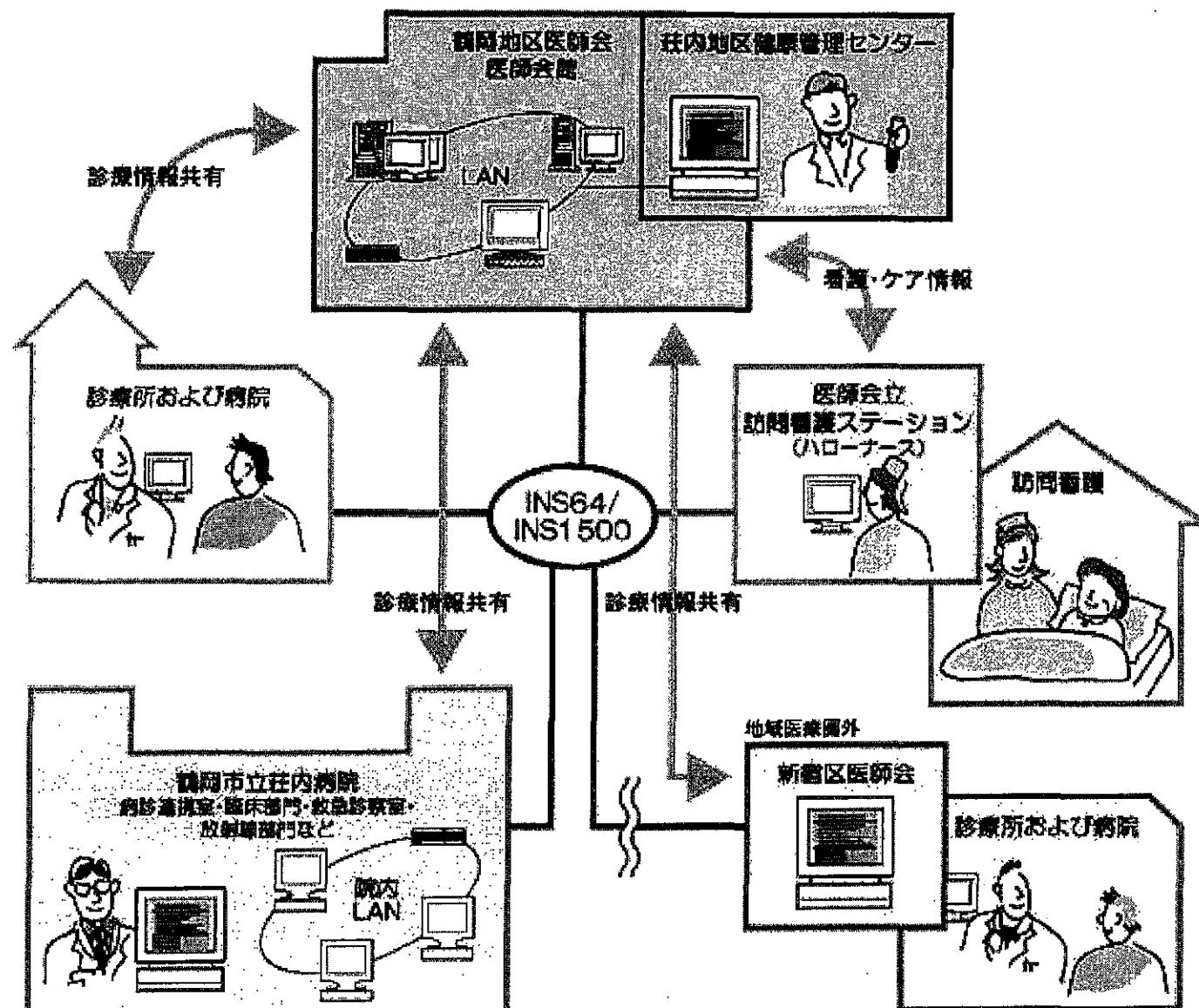


➤ Net 4U (ネットフォーユー) 鶴岡地区医師会

4 Units : 病院・診療所・介護福祉施設・検査センター

医療連携型電子カルテシステム



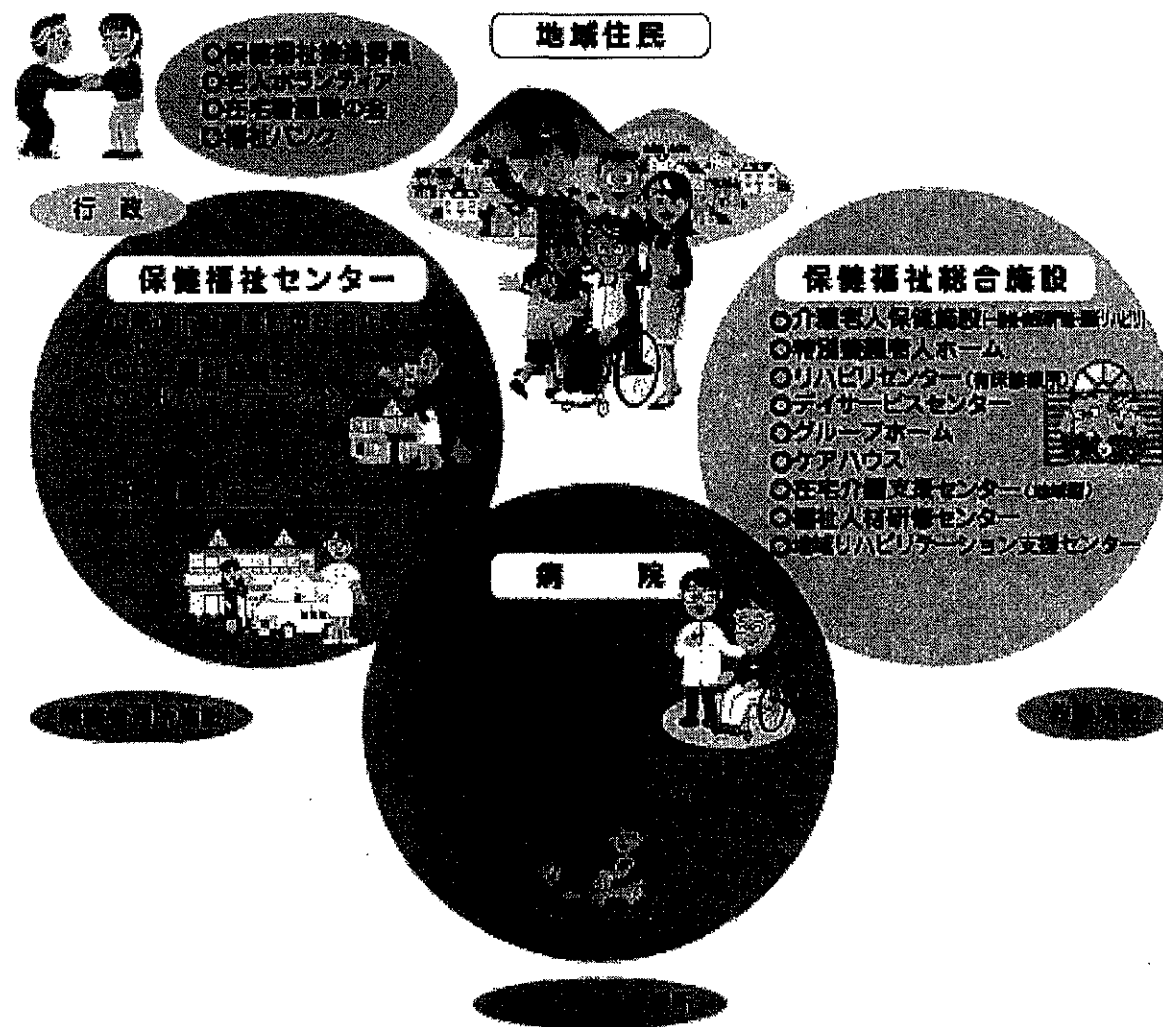
【出典】鶴岡地区医師会ホームページ 他

③ 病院・診療所・介護施設等の連携

➤ 公立みつぎ総合病院保健福祉総合施設 (広島県)

地域包括医療 地域に包括医療を、社会的要因を配慮しつつ継続して実践し、住民のQOLの向上をめざすもの。

包括医療(ケア) 治療(キュア)のみならず保健サービス(健康づくり)、在宅ケア、リハビリテーション、福祉・介護サービスのすべてを含有するもので、施設ケアと在宅ケアとの連携及び住民参加のもとに生活・ノーマライゼーションを視野に入れた全人的医療(ケア)。地域とは単なるAreaではなくCommunityを指す。

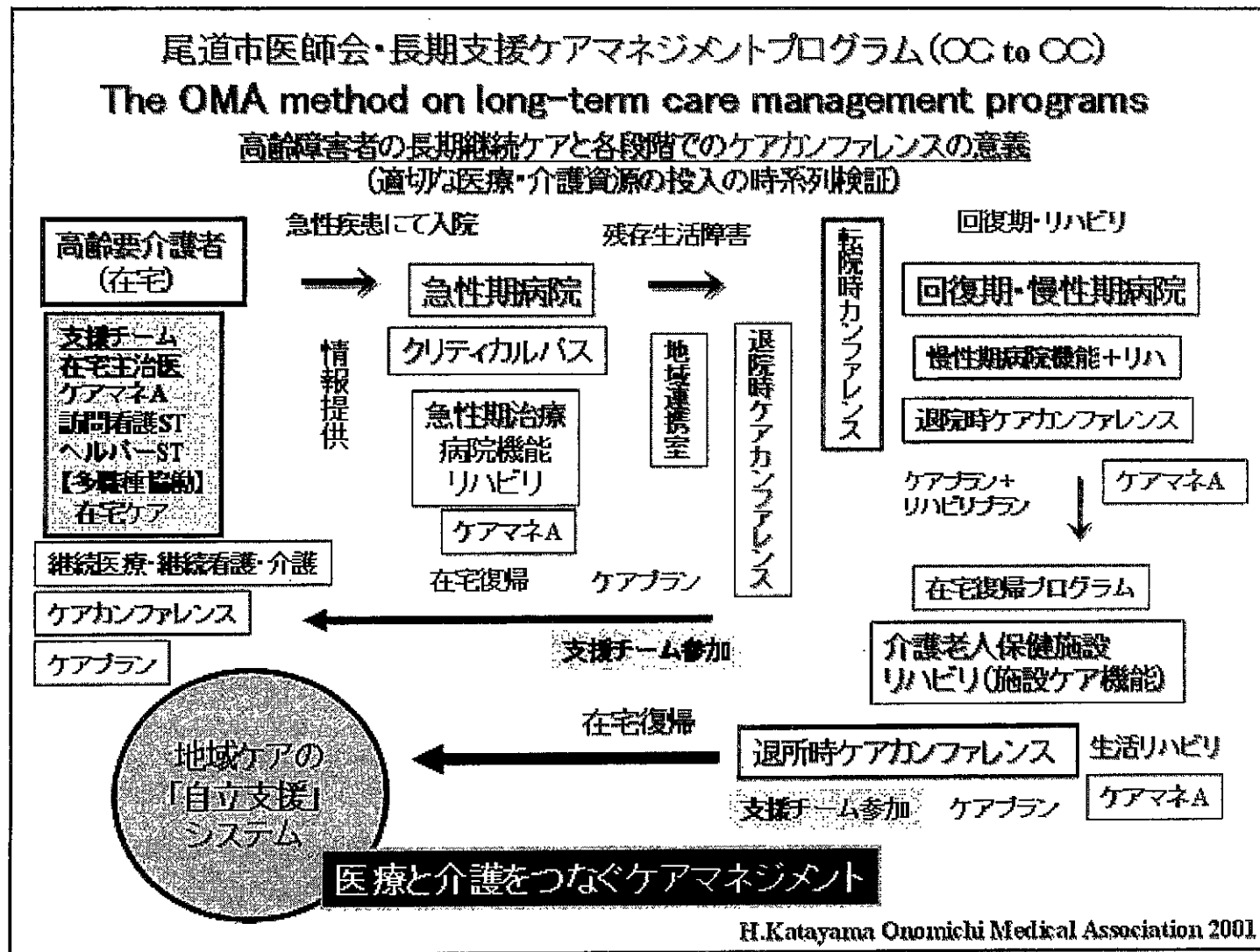


(広島県)

ケアマネジメントと地域医療連携がもたらす患者本位の継続ケア。

他職種協働・主治医機能

主治医がケアカンファレンスに必ず出席し、高齢者の退院時から在宅まで継続的にかかわる「尾道方式」



H.Katayama Onomichi Medical Association 2001

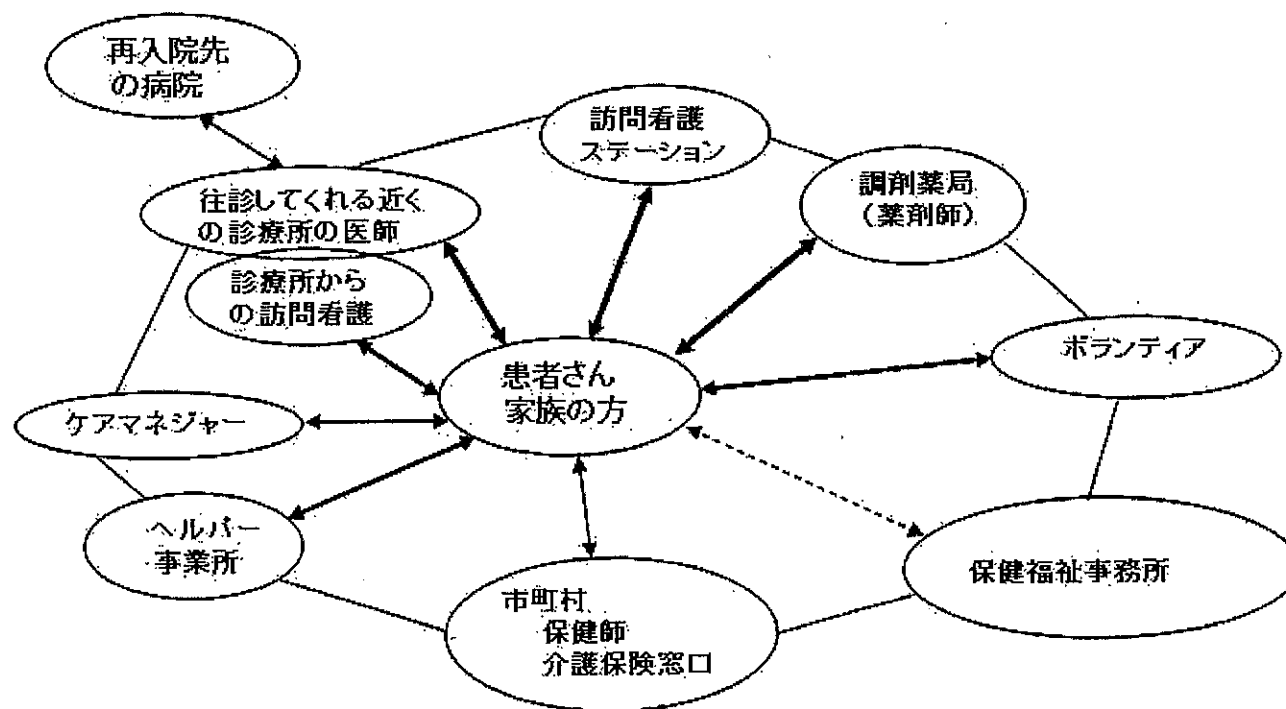
【出典】尾道市医師会ホームページ 他

④ 在宅医療を支える医療連携の事例

➤ 在宅ホスピスケア推進事業 宮城県・保健福祉事務所

病院主治医・かかりつけ医・訪問看護ステーション・在宅介護支援センター・薬局

- ・ みやぎ在宅ホスピスケアネットワーク
- ・ 地区在宅ホスピスケア連絡会



自宅での療養を希望する患者さんや家族の方に、このように関係機関・者が連携を取り合って、よりよい医療やケアサービスが提供できることを目指しています。

【出典】宮城県ホームページ 他

➤ イエローカード

かかりつけ医に連絡がとれない
急変時にも指定の病院に入院できるシステム

➤ グリーンカード

看取りが必要となったとき、医師
会当番医が必ず診療してもらえる
システム

静岡市静岡医師会と市内の病院、救急隊との地域医療連携

○ 在宅患者相互連携システム（イエローカード・システム）

静岡市静岡医師会と静岡市内の5病院が連携して実施している、在宅の寝たきりの患者に対する連携システムです。

・制度の概要

ア 在宅の寝たきり患者が、病状の悪化などに備えて、自分が診療を希望する病院を選択し、かかりつけ医は、当該患者の病状をあらかじめ病院に登録します。

→ 患者にイエローカードを配布。

イ 家で寝たきりの患者の容態が急に悪くなったときは、まず、かかりつけ医に連絡しますが、万一、連絡がとれない場合は、イエローカードに登録してある病院に連絡し、当該病院で診療を受け、必要ならば入院もできます。

○ 在宅医療支援看取りシステム（グリーンカード・システム）

・制度の概要

ア 家族とともに在宅で最後を全うしたいと希望する患者について、かかりつけ医は患者の希望を受けて、あらかじめ病状を医師会に登録しておきます。

→ 患者にグリーンカードを配布。

イ 在宅で看取りを希望される患者の容態が急変したときには、まず、かかりつけ医に連絡します。万一、連絡が取れない場合は、救急隊に電話をし、グリーンカードを持っていることを伝えると、救急隊が当番の医師に連絡し、当該医師が駆けつけ、在宅患者の看取りを行います。

【出典】静岡県医療計画ホームページ 他

⑤ その他のシステム

- 病院で高度な治療後、診療所に逆紹介。

➤ 周産期医療システム

周産期医療体制（重症な合併症等危険な状態にある妊産婦や低出生体重児等に適切な医療を提供する医療体制）の整備

➤ 産科オープンシステム（静岡県）

県西部浜松医療センターと診療所で行われている地域医療連携

○ 県西部浜松医療センターにおける産科オープンシステム

・制度の概要

- ア 出産までの健康診査は、産科の診療所で実施
- イ 出産については、県西部浜松医療センターで対応
- ウ 出産後の健康診断は、紹介元の診療所で実施
- エ 帝王切開等のハイリスクの出産は、出産後も県西部浜松医療センターで対応
- オ 病院の医師と診療所医師が、患者への直接指導や面談による治療方針の検討などにより、退院指導、術後管理等に関して共同指導を実施

・病院の対応状況等

- ア 病院の利用病床数は産科 18 床及び婦人科病棟 40 床の一部
- イ 病院の総出産数 1,035 件中オープンシステムによる出産 690 件（平成 15 年度）

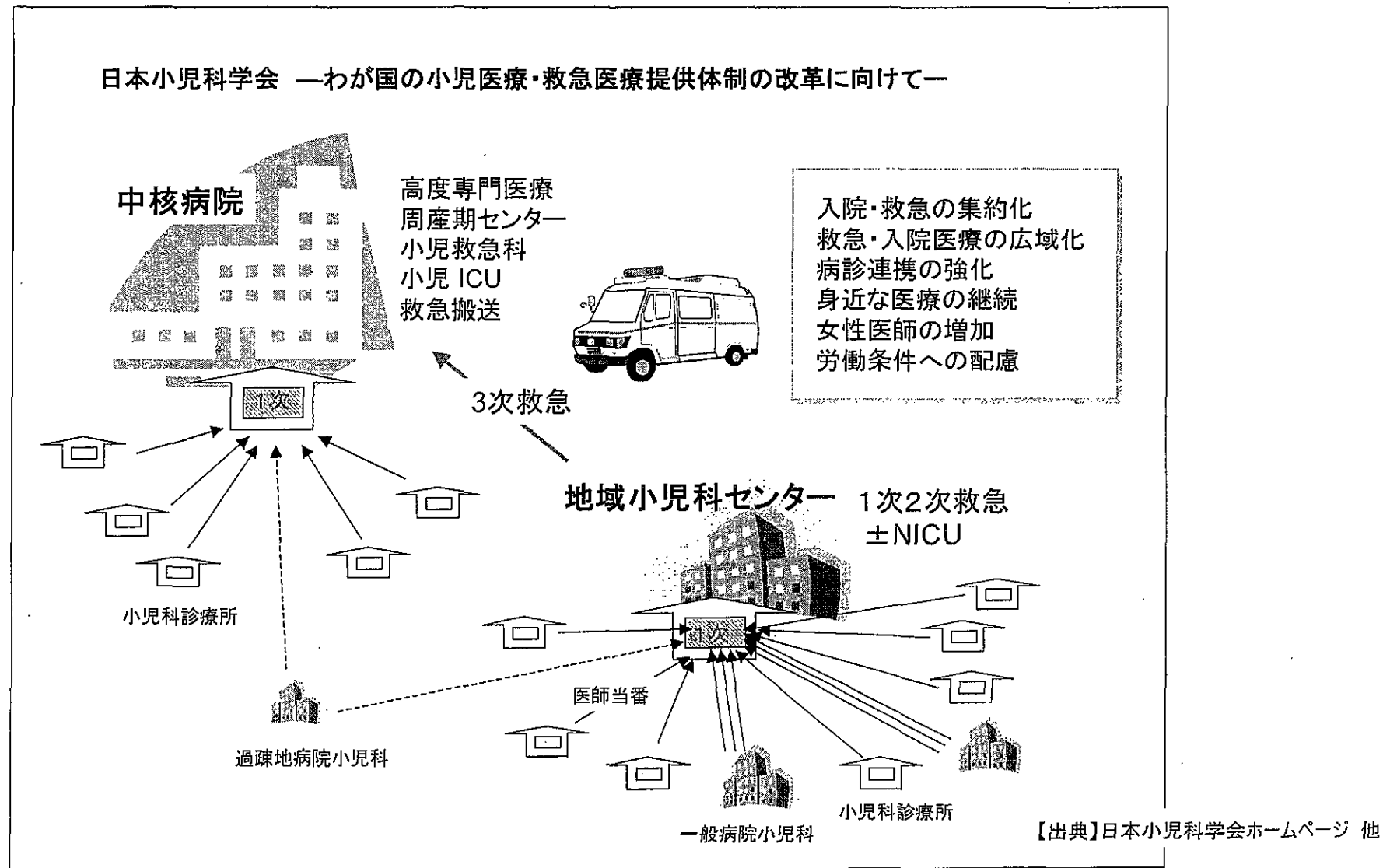
➤ 産婦人科のセンター化（北海道中空知地区）

【出典】静岡県医療計画ホームページ 他

砂川市立病院と滝川市立病院、市立美唄病院の診療科単位の広域連携

特定の医療機関に医師を集中し、他の医療機関に外来医師を派遣するシステム

➤ 地域小児科センター構想（日本小児科学会）



豊能広域こども急病センター：箕面市立病院隣接別棟，終夜型。4市2町による設置

➤ 地域連携による精神障害者支援の取組み （富山県）

関連：砺波厚生センター（精神障害者の地域医療の推進を目指した退院支援のための企画立案研究）

医療機関及び授産施設、地域生活支援センター、行政が協力して実施。

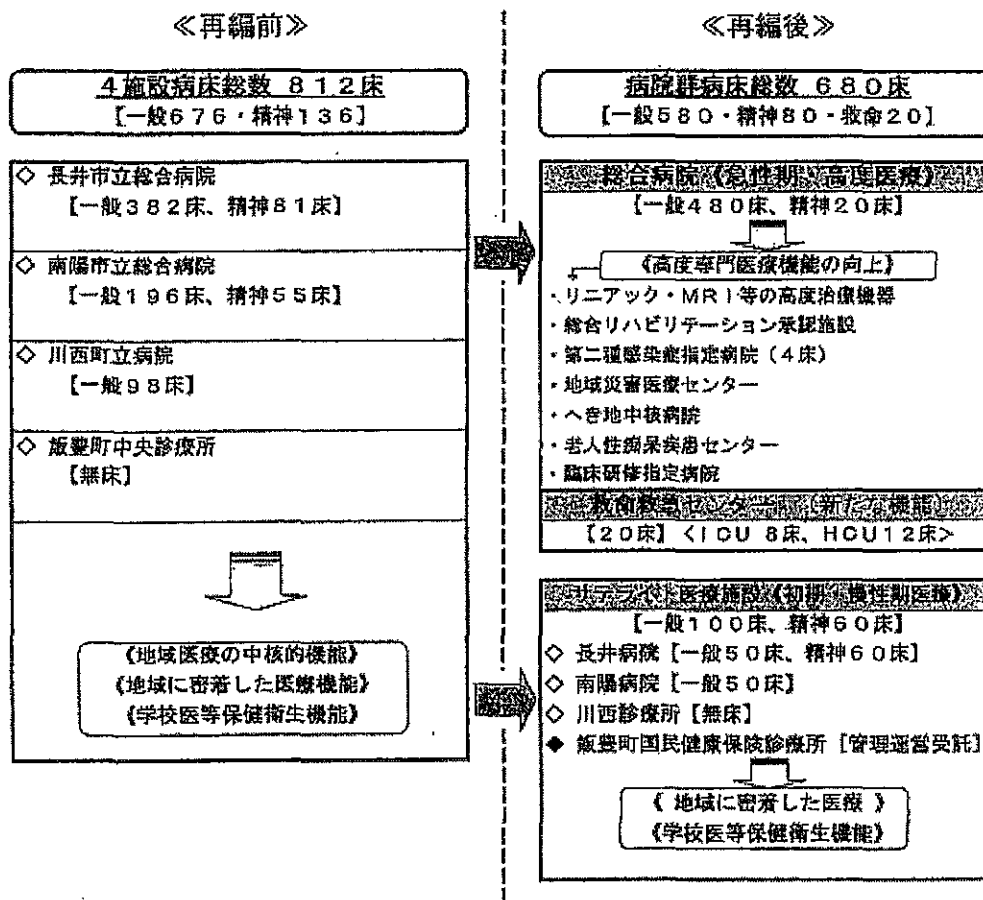
連携クリティカルパスを作成するとともに、円滑に退院し、地域で安心した生活が送れるようにすることが目的

➤ 治験ネットワーク

- 大規模治験ネットワークの構築：複数の医療機関をネットワーク化し、質の高い治験の症例数を速やかに確保
- 地域におけるネットワークへの支援：疾患群ごとのネットワークや、大学病院や地域医師会、地方自治体等を中心としたネットワーク

➤ 置賜公立病院組合 公立置賜総合病院 (山形県)

山形県・2市2町(長井市・南陽市・川西町・飯豊町), 機能分担とネットワーク化



➤ 北海道総合保健医療協議会における検討 (北海道)

地域の検討会での議論を踏まえ、広域連携や集約化について検討

⑥ その他（地域連携クリティカルパス等）

➤ 国立病院機構 熊本医療センター 疾患別病診連携システム

入院診療計画書

大腿骨頸部骨折に対し骨接合術を受けられる方へ

() 様 担当医 () 担当看護師 () 担当理学療法士 ()

項目	入院日 / ()	手術日 / ()	術後1日 / ()	術後2日 / ()	術後3～4日 / () ~ / ()	術後5日 ~ 3週 / () ~ / ()
食	☐ 食事は夕食まで ☐ 飲水は22時まで	☐ 預室食、お粥の動く音を 確認後、飲水できます その後、食事出来ず	☐ 断乳ありません			
体	☐ 痛みに応じて鎮痛剤 を引っぱります (痛くないように)	☐ 手術が終わって、長時間 はベッド上安静です	☐ 術後で鎮痛剤します	☐ リハビリにて歩行開始です		
リ	☐ 創傷の消毒・観察	☐ 3時間経ったら、身体を おこします	☐ 歩行します	☐ 平行棒内での立ち上がりから徐々に 歩行始めます		
ビ	☐ 術室でのリハビリが 終わります		☐ 車椅子で移動出来ます	☐ 個人個人で歩行能力が違いますが 次のページを参考に受療後の歩行レベル 目標を目標に頑張ってください		
歩	☐ 歩行の練習をします	☐ 術後おしっこが はいています	☐ おしっこの管が抜けて からトイレで可能です			
結	☐ お風呂にのびて毛を 剃ります		☐ ガーゼ交換があります (目・水・金・土曜)		☐ 術後8日目までに全快です ☐ 全快未達次のガーゼ交換日に 傷口の縫合があります	
入	☐ 可成りであれば 入浴できます		☐ 浴試		☐ 傷口の縫合後シャワー浴可能 次第に入浴できます	
内	☐ 術後鎮痛剤の投与	☐ 術後鎮痛剤の投与にて術の 鎮痛をすることがあります				
術	☐ 化膿止め注射の テストがあります	☐ 術後に化膿止めの点薬が あります	☐ 術後化膿止めの点薬があります			
注	☐ 必要に応じて鎮痛剤 (坐薬) 使用	☐ 必要に応じて鎮痛剤 (注射) 使用	☐ 必要に応じて鎮痛剤 (坐薬) 使用			
検	☐ 必要時に術後検査 （生体）実施	☐ 必要時に術後検査 （生体）実施	☐ 必要時に術後検査 （生体）実施		☐ 血液検査 ☐ レントゲン撮影 ☐ 創傷観察	
退	☐ 入院期間満了	☐ 術後観察				
再	☐ 手術前説明 ・ ☐ 術前科医面談 ・ ☐ 手術室看護士説明					

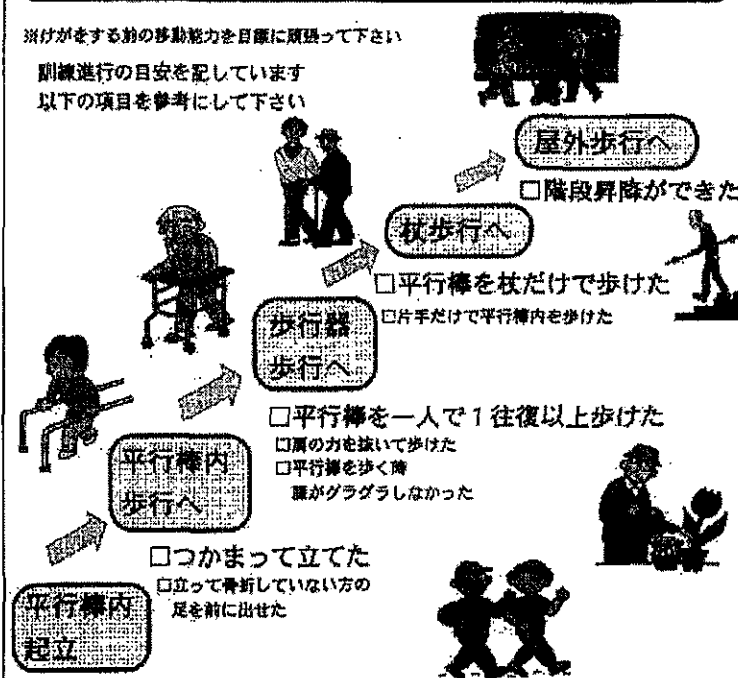
※術後合併症がなく、受け入れ可能な施設があれば、転院となる場合があります。

国立病院機構熊本医療センター 整形外科

リハビリの途中段階で他の施設へ転院される患者様も
転院先の病院で同じ様にリハビリが進められます

※けがをする前の移動能力を目標に頑張ってください

訓練進行の目安を記しています
以下の項目を参考にしてください



国立病院機構熊本医療センター 整形外科